Vol.78
あましんレポート

台風25号 印旛沼 決壊から復旧へ



9月の台風25号で、印旛沼の堤防が決壊しました。
昭和44年に管理が始まって以来、初めての決壊です。成田市では住宅や田んぼが水につかり、多くの方が避難を余儀なくされました。
被災された皆さまに、心からお見舞い申し上げます。
雨がやんだ後に水が押し寄せる、これまでにない災害でした。今号では、決壊から応急復旧までの歩み、暮らしとなわいの再建、12月補正予算で動き出す新しい支援、そして次の災害への備えを、現場で見聞きしたことをもとにお伝えします。

千葉県議会議員
雨宮しんご

1 雨がやんだ後にやってきた災害

台風25号で、**成田では48時間に327ミリの雨が降りました。**観測史上最大に並ぶ記録です。成田の9月1か月の平年の雨量はおよそ195ミリ。その1.7倍近い雨が、わずか2日で降ったことになります。

実は雨の前から、印旛沼では9月17日の夜から予備排水を始め、水位を下げて備えていました。それでも22日未明、**印旛沼の水位は5.04メートルに達し、船形干拓、角川、長門川の3地区4か所で堤防が決壊**しました。沼そのものの堤防も、水が入る入口も、出ていく出口も破れたのです。

台風一過、雨がやんだ秋晴れの早朝、水がどんどん押し寄せてきました。北千葉道路をはじめ周辺の道路は冠水し、住宅や田んぼが次々と水につかりました。翌23日、大竹地区では、垂直避難をされていた方がボートで救助される場にも立ち会いました。

印旛沼は、ポンプで押し出さなければ水が抜けない沼です。雨が上がっても、水はすぐには引きません。成田市にとって未曽有の**「時間差災害」**でした。









YouTube あましんチャンネル
詳細はこちらからご覧ください
時間差災害の現場
決壊は1か所ではなかった

2 印旛沼決壊 9日間で締め切り、応急復旧へ!

9月25日 国・県・水資源機構で**「チーム印旛沼」を結成**しました。排水機場をフル稼働させて沼の水位を下げるとともに、全国から集まった**排水ポンプ車30台**が浸水した地域の水を抜き、**うち12台**が大竹地区周辺の氾濫水を沼へ戻しました。**国のTEC-FORCE（緊急災害対策派遣隊）**も駆けつけました。
船形干拓の決壊箇所は**約72.6メートル**。
25日に工事が始まり、鹿島建設の皆さんが24時間体制で作業にあたりました。河川防災ステーションに備蓄されていた石や大型土のうも、災害対策協力会を中心とする地元事業者の協力ですぐに運び込まれました。

9月30日 **氾濫対策を行う。**

10月3日 **着手から9日目に荒締切が完了。（1 写真）**

10月15日 **鋼矢板を2列に打ち込んだ仮締切堤防が完成。（2 写真）**






応急復旧が完了しました。

工事に従事したのは延べ		大型ダンプは累計
約2900人	無事故での完了です！	3400台

熊谷知事も繰り返し現地を訪れ、国の大臣も相次いで視察するなど、国と県が一体となって復旧が進められました。
24時間体制で工事にあたった皆さんをはじめ、応急復旧を支えてくださったすべての関係者に、心から敬意と感謝を申し上げます。

YouTube あましんチャンネル
詳細はこちらからご覧ください
知事と決壊現場を歩きました。
荒締切完了。次のフェーズへ

千葉県災害義援金 （10月下旬時点）

寄せられた義援金
約14億5900万円



第1次配分決定額
約4億8400万円

皆さまの義援金が、被災者のもとへ

8月の千葉豪雨と台風25号に寄せられた千葉県災害義援金は、約14億5900万円にのぼります（10月下旬時点）。
10月30日、第1次配分として約4億8400万円を届けることが決まりました。

1件あたりの配分額

被害区分	配分額
全 壊	20万円
半 壊	10万円
床上浸水	2万円

お寄せくださった皆さまに、心から感謝申し上げます。

雨宮しんご事務所
〒286-0041
成田市飯田町 143-11
TEL：070-3131-0057

X（旧 Twitter）公式アカウント
LINE 公式アカウント
ama-shin.net 公式ホームページ

片付けから住まいの再建へ！

3

浸水した家の片付けは、家財道具を運び出し、清掃して、消毒へと進みます。ところが、現場で聞こえてきたのは**「家が乾かない」**という声でした。連日の雨で壁や床にしみ込んだ水が抜けず、消毒にもリフォームにも進めない。**乾燥という工程が欠かせなかった**のです。
そこで、地域の皆さんと協力し、乾燥に必要な送風機を届けました。
被災直後の片付けから、これからは住まいの再建へ。
被災された方々が一日も早く安心して暮らせるよう、復旧を次の段階へ進めていく必要があります。
避難先ホテルの利用延長や、水没した井戸の水質検査への補助も進んできました。これから本格化する住まいの再建についても、被災された方々の声を受け止め、必要な支援につなげてまいります。

YouTube あましんチャンネル
詳細はこちらからご覧ください

災害救助法に基づく住宅の応急修理
市に申し込みます！
成田市建築住宅課
0476-20-1564

注意 市が業者に修理を依頼し、費用を直接支払います。

先にご自身で工事代金を支払うと、対象にならない場合があります。
申し込みには期限がございますのでお早めに市にご相談ください。









来年の春 田んぼに水を届けるために！

4

県内の農林水産業の被害額

台風25号 約256億円 ＋ 8月の千葉豪雨

約339億円（10月14日時点）

熊谷知事は、400億円に達する可能性もあると述べています。印旛沼周辺では、白山甚兵衛機場をはじめ8つの機場が被災し、千葉豪雨を含めると小さな機場も100か所以上が冠水しています。
県は10月21日、被災した集水路や排水機場の復旧に7億9000万円を専決で計上しました。
田んぼは4月に始まり、種もみの予約は11月ごろに行われます。来年作付けできるのか、農家の皆さんは判断を迫られています。





激甚災害の指定だけでは、農家一人ひとりに支援は届きません。

そこで千葉県は 12月補正予算案に営農再開の支援を盛り込む方針を示しました！

主な支援内容は次の3つです。



漁協やうなぎなど**養殖業の施設の復旧も対象**になります。**約5万匹のうなぎを失った印旛沼漁協**も、年明けからの再開を目指しています。

ただ、今回の支援は、水に沈んだ今年の稲の収入を補うものではありません。
商工業の小規模事業者への補助も上限100万円にとどまり、被害の大きい事業者には足りません。
来春の営農再開と、地域を支える事業者の再建。その両方に届く支援が必要です。

YouTube あましんチャンネル
詳細はこちらからご覧ください

住めないのに「半壊」？

5

成田では、千葉豪雨、その後の大雨、台風25号と、繰り返し水につかった家があります。隣の酒々井町では、9月21日から10月13日まで、約3週間水が引かなかった地区もありました。
それでも**「半壊」**と判定され、**「住めないのに、なぜ」**という声を伺いました。

住宅の被害

- まず浸水の深さで判定されます。
- 床上1メートル未満なら半壊です。
- 水につかっていた**期間の長さ**は判定に入りません。



千葉豪雨では、住宅被害のうち**約4割が半壊**でした。台風25号でも、**県内で642棟が半壊**しています（10月16日時点・速報値）。半壊でも、最大75万7000円分の応急修理は受けられますが、**生活再建支援金は国の制度も県の事業も中規模半壊からで、半壊は対象外**でした。半壊世帯への支援が課題となるなか、**県は12月補正予算案に、県独自に20万円を支給する方針を盛り込みました。**
県として初めての取り組みです。

基準そのものの見直しは国の役割です。10月15日、熊谷知事は国への緊急要望で見直しを求めました。国と県が両輪となって、住まいの再建を支えていく必要があります。

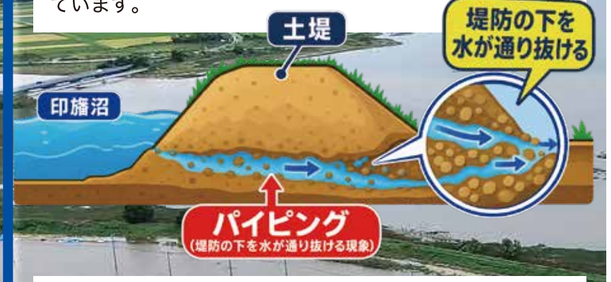


YouTube あましんチャンネル
詳細はこちらからご覧ください

令和の治水対策は待ったなし！

6

印旛沼の堤防は、土でできた堤防（土堤）が多くを占めています。今回の決壊では、堤防の下を水が通り抜ける**「パイピング」**と呼ばれる現象が起きていた可能性も指摘されています。



10月21日、県は学識者による**「印旛沼堤防調査委員会」を設置**しました。決壊の仕組みを解明し、復旧工法や、決壊箇所以外の対策も検討します。初会合は10月30日、船形干拓の現地確認と成田土木事務所での会議です。



10月8日、熊谷知事と小泉市長らは井林国土交通大臣に、**復旧への支援と決壊原因の究明を要請しました。**15日の国への緊急要望では、**印旛沼を囲む約34キロの堤防の緊急点検や、長門川・印旛放水路の改修、流域全体での対策**を求めています。



角川についても、低い土地にあることや水門がないことが被害にどう影響したのか、検証が必要です。
さらに、決壊の予兆を事前につかみ、早期の避難や対応につなげる仕組みも欠かせません。

予備排水で備えていても、それを超える雨が降りました。国・県・流域の市町が一体となった、令和の治水対策は待ったなしです。
県議会から、実効性のある対策を求めてまいります。

